

試験研究成果普及情報

部門	花植木	対象	普及
課題名：スターチス・シンフォニーシリーズの定植時期			
〔要約〕「ラベンダーシンフォニー」は花茎摘除終了時期に関わらず定植時期を早めると早期出荷が可能でありが、早期出荷に関して「ブルーシンフォニー2号」の花茎摘除終了時期は9月中下旬がよいが、定植時期の影響は少ない。			
キーワード：スターチス、シンフォニー、早期出荷、定植時期、花茎摘除			
実施機関名	主 査	農業総合研究センター暖地園芸研究所花き研究室	
	協力機関		
実施期間	2002年度～2004年度		

〔目的及び背景〕

シンフォニーシリーズの品種は、豊産性品種で花芽分化に低温をほとんど必要としないといわれ、夏季の高温期に定植してもよく抽苔するという特長をもっている。そこで、代表的な2品種について、切り花が品薄になる秋からの出荷を目標とした早期定植による栽培について検討した。

〔成果内容〕

- 1 年内（12月まで）採花本数は、両品種とも早く定植し、花茎摘除終了時期を早めた方が多くなる。出荷基準を満たす採花本数（切り花長50cm以上、分枝数3本以上）は、「ラベンダーシンフォニー」では花茎摘除終了時期の違いによる明らかな差は認められないが、「ブルーシンフォニー2号」では6～7月の早期に定植し、花茎摘除終了時期が遅いほど多くなる（図1）。
- 2 総採花本数では、「ラベンダーシンフォニー」は、早期に定植するほど多くなるが、「ブルーシンフォニー2号」は定植期による差は少ない（図2）。出荷基準を満たす採花本数は、両品種とも花茎摘除終了時期の差はほとんど見られない。
- 3 「ラベンダーシンフォニー」は6～7月の早期定植でも比較的順調に生育するため、高温期に強い品種と考えられることから、6月中旬から7月中旬に定植することで、10月からの出荷が可能である。
- 4 「ブルーシンフォニー2号」は、高温期に弱い品種と考えられることから、定植時期を7月中旬以降とし、花茎摘除終了時期は9月中下旬がよい。

〔留意事項〕

高温期は、遮光対策などを充分に行い、室温を下げるようにする。萎凋細菌病は夏季の高温期に発生しやすく、褐斑病は8～9月ごろに発生しやすいので注意する。

〔普及対象地域〕 県下全域

〔行政上の措置〕

〔普及状況〕

[成果の概要]

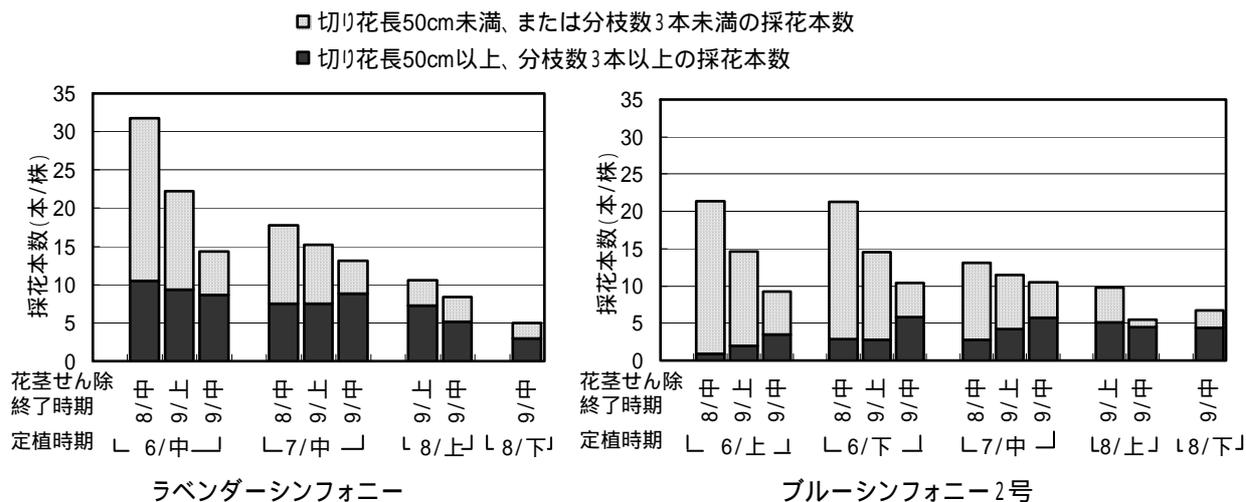


図1 定植時期と花茎せん除終了時期の違いによる年内の採花本数 (平成15年度)

[発表及び関連文献]

- 平成15年度暖地園芸試験成績書
- 平成16年度暖地園芸試験成績書
- 平成16年度試験研究成果発表 (情報提供)

[その他]

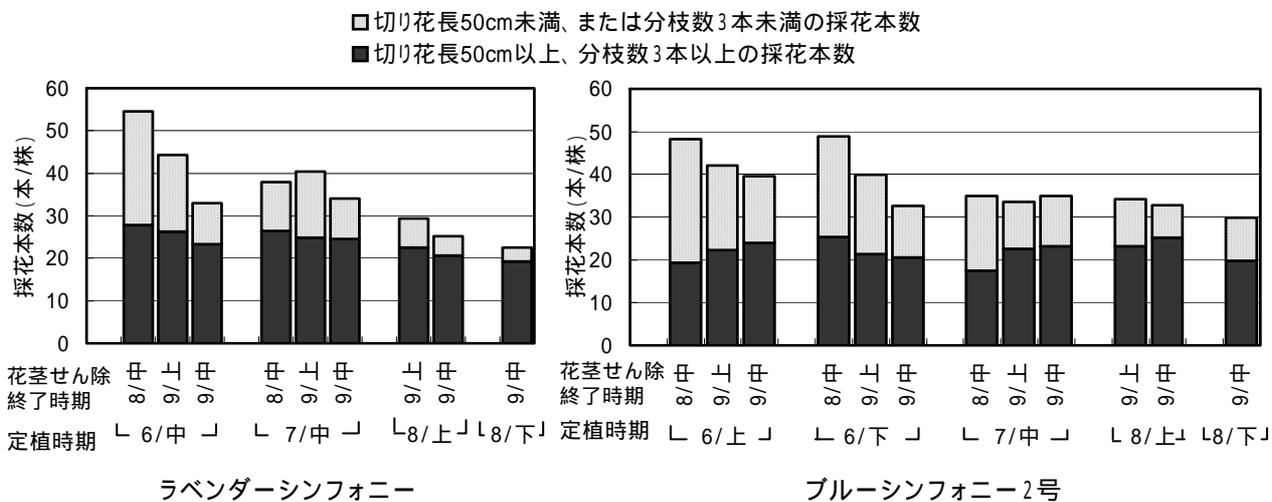


図2 定植時期と花茎せん除終了時期の違いによる総採花本数 (平成15年度)

注) 翌年4月28日に栽培を終了した。